



社団法人

海外と文化を交流する会

(社) 海外と文化を交流する会会報

2008年7月発行(3ヵ月1回発行)

第38号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて



吉岡堅二——「雉子」

1981年、ニュージーランドに寄贈した日本画16点の中の作品。吉岡堅二は1906年、東京生まれ。日本画家・吉岡華堂を父に、野田九浦に師事。1930年、第11回帝展に「奈良の鹿」で特選受賞。33年にも特選。上村松篁、山本岳人らと創造美術(現・創画会)を結成。文部大臣賞、毎日美術賞、日本芸術院賞などを受賞。東京芸術大学で教鞭をとる。カッパドキア壁画模写、法隆寺金堂壁画再現模写などで腕を振るう。1990年没。

巻頭随筆

■宇都宮に帰って——随筆記

室井鐵衛(社)海外と文化を交流する会名誉会長

50年住んでいた東京を離れて、昨年の春、生まれ故郷の宇都宮に帰りました。子供の頃育った宇都宮はすっかり変わっていました。道路は全て舗装され車の多いのには驚きました。でも空気がきれいで、青い空は広々とその美しさは格別で子供の頃が無闇に思い出されました。

小学1、2年の頃、学校の帰り道、松が峰にあるカソリック教会に小さな山羊の牧場があり、その牧場の柵にまたがって遊んでいました。午後3時になると、司祭さんが焼きたてのクッキーを作って子供達にくれたのを憶えています。晴れた日には、毎日曜にその山羊の牧場の柵にまたがっていた事など、なんとどのかな子供時代だったなと思います。宇都宮に帰ってから改めて本を読む機会が多くなって気が付いたことは、改めて日本って素晴らしい国であること。古代から近代まで素晴らしい文化を持った国であることを改めて認識した次第です。

たまたま5月の初めに心臓に水がたまって入院せざるを得なくなり、1ヶ月近く病院生活を余儀なくされました。その時素晴らしい本をいただきました。小生に日本で初めて世論調査と市場調査の研究を教えてくださいとくださったコロンビア大学のハーバード・バッシン博士のお弟子さんで、今、日本でアメリカの知日派学者の第一人者として知られているジェラード・カーチス博士から、日本の政治と自分の日本での45年間の記録を書いた“政治と秋刀魚”という本をいただきました。病院のベッドで静かに読んで、その内容の豊かさと鋭い観察力に目を覚まされる思いをしました。

その本の172頁“日本人のアイデンティティ”と言う節があります。そこに「日本人がアイデンティティを気にするのは、外国人から見ると奇異に感じる。アメリカ人がアイデンティティを考えるのは理解できる。世界の隅々から違った宗教を持って、色々な人種が集まってアメリカという国を構成しているため、アイデンティティを混乱することがあるからだ。昔であればアメリカは人種の坩堝で、一旦、アメリカに来たのであれば、出身国のアイデンティティを捨てるべきだという考え方が強かった。今は自分のルーツを大事にすべきだという考え方が主流になっている。いろんなアイデンティティがある中で、アメリカ人であることを強調するために他の国以上に国旗を頻繁に使用したり、国歌を歌ったりして、ナショナリズムを高めようとする。しかし、日本人は、朝目覚めても日本人だし、夜寝るときまで日本人としてのアイデンティティを疑うことはない。長い歴史から積み上げた特有な文化を持っている国民であると言う意味でも、アイデンティティはしっかりしている。他のアジア諸国と違って、植民地になったことも無く、どんな外国の影響を受けても日本の独自性を失っていない。半世紀以上前に、6年半アメリカに占領され、新しい制度をたくさん取り入れざるを得なかったが、それでもアメリカと同じような国になったわけではない……」

その後もまだまだ日本の特有さ、良さを論じて居られます。

これを読んで、改めて日本の代表的な仏教学者である故文学博士、高楠順次郎先生の書かれた“新文化原理としての仏教”を思い出しました。その本に“日本は自然の中に異種民族が同一化して自然に養われ、自然美としてそこに国民の性格が生まれた。日本人は自然に養われ、自然美の中に日本民族を形成した。そこに「物のあわれ」の情意が平安朝文芸に顕われ、次で幽玄体として、新古今集、謡曲、俳句にあらわれ、芸能日本の詞藻と潤した”と述べておられることを記憶しています。

アメリカの政治学者ジェラード・カーチス博士は、日本の文化、美しい日本を讃えています。今、我々は少し日本人として不勉強ではないかと感じる次第です。改めて考え、感じたことは現代認識の問題ではないかと。

それは、

- 1 西洋と東洋の差
- 2 日本、中国、インドの差
- 3 古来の日本と現代の日本との差

(飛鳥—平安—足利—室町—鎌倉—戦国—江戸—明治—大正—昭和—平成の差)

の認識とその理解であり、日本の美の認識ではないかと言うことです。

宇都宮に移り住み、病院生活をしたり、つれづれ本を読みながらこんなことを考えてしまいました。今、宇都宮の友人達と“自然学”を勉強しようと集まっています。“海外と文化を交流する会”はまさに文化を改めて学び合う会としての存在は見逃せないものだと感じています。この会の40年近い運動活動は地味なものですが、素晴らしいと思います。

青盛のぼるさんのコンサートに行った小生の友人達は、あの声の素晴らしいさに皆感動していました。その中には、わざわざヨーロッパまでオペラを見に行く友人もいて、手紙をくれたくらいです。これからも青盛さんのコンサートを続けたいものですね。

平成19年度事業報告

■総会報告

平成20年(2008年)5月13日 17:00~17:30 於・銀座教会会議室

出席者：ジョージ・W・ギッシュ、浅野祐一郎、大谷俊介、角谷多美子、松岡裕子

陪席者：渡辺いつ子

委任状：鮫島宗明、高楠博、中川史紀子、本田朋子、松田洋子、松岡恒太郎、三井富美子、室井鐵衛、山田悦弘

定款21条2項の定めにより、会長が議長となり「理事会は定款22条による定数を満たしており、有効に成立した」旨を告げ、定刻に直ちに開会を宣した。

まず、議長より議事録署名人に松岡裕子、角谷多美子の両理事を選任したいとの発言があり、出席者一同これを了承し、両氏も承諾した後、直ちに議事に入った。

1. 平成 19 年（2007 年）度事業報告、同決算報告

議長の指名により、専務理事が配布資料に基づき説明を行い、採決の結果全員一致で承認された。決算書によれば、今年度は前年度の日豪交流年事業により派生した諸事業の準備の段階であり、大きな動きがなく、予算よりかなり縮小された決算となった。

2. 平成 20 年（2008 年）度事業計画案、同予算案

議長の指名により、専務理事が配布資料に基づき説明を行い、採決の結果全員一致で承認された。前年度に続き、オーストラリアとの美術系学生の交流事業、日本画里帰り展等の事業の実現に全力を尽くす。また、今年度は会の創立 40 周年にあたり、長年支援された会員への感謝と会員増強の機会とするために、平成 21 年（2009 年）5 月 23 日に記念会を行う計画である。

議長は以上を持って所定の理事会の全議事の審議を終了したことを告げ、午後 5 時 30 分閉会を宣した。

以下は事業報告および収支報告である。

■平成 19 年（2007 年）度事業報告書

平成 19 年（2007 年）4 月 1 日～平成 20 年（2008 年）3 月 31 日

1. つどい（定款 4 条 2 項による）

昨年度日豪交流年事業に参加し、メルボルンにおいて日本画展および日本画啓蒙のレクチュアとデモンストレーションを行い大成功を収めたことを受け、4 月 14 日にその報告会を行った。会員、美術関係者、学生等 50 名の参加を得、和やかな一時であった。

2. 国際交流事業

オーストラリアに寄贈した 25 点の日本画の保存法、今後の利用法等につきオーストラリアの担当者と連絡を取っている。

3. 留学生支援奨励金

オーストラリアとの留学生交換に備え、資金をプールする。

4. 宮崎亮医師支援

長年にわたりバングラデシュの医療支援をしておられる宮崎亮医師の活動を支援してきた。今後、当会が日本画をオーストラリア、ニュージーランドに寄贈した初期の活動を生かした活動をしてゆくため、資金を集中的に使う必要が出たことを考慮し、宮崎医師への支援は今年度をもって中止することを決定した。

5. 会報発行

7 月、10 月、3 月の 3 回発行し、会の活動を報告するとともに会員相互の親睦をはかった。

6. 講演会・音楽会

5 月 18 日（金）霊南坂教会において「青盛のぼるチャリティーコンサート」を行った。資金の補充のほか外国で活躍している日本人芸術家を国内に紹介することを目的としたコンサートである。満席の聴衆はさらに円熟した青盛氏の歌声に魅了された。

7. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援

オーケストラの会員として支援するほか、つどい、コンサートの折に演奏も依頼している。

8. 日本テレマン協会支援

東京での公演に参加することをもって支援している。

■平成 20 年（2008 年）度事業計画案

平成 20 年（2008 年）4 月 1 日～平成 21 年（2009 年）3 月 31 日

1. つどい（定款 4 条 2 項による）
 - ①オランダに行かれる北條画伯の帰国報告会を行う。
 - ②当会創立 40 周年記念パーティを、会員、その他 50 名の参加を目途に行う。
 - ③イタリア・オペラと美術を学ぶツアーの報告会を行う。
2. 国際交流事業（定款 4 条 2 項による）
 - ①オーストラリア、ニュージーランドに寄贈した日本画の「里帰り展」を行うべく検討する。両国に寄贈された日本画は、現代の著名な画家によるものであり、作家のうちには文化勲章受章者も多い。画の質も高く、貴重な文化財であるため、是非「里帰り展」を行いたい。
 - ②イタリア・オペラと美術を学ぶツアーを企画する。外国で活躍している日本人芸術家を日本に紹介するため青盛のぼる氏のコンサートを続けてきたが、青盛のぼる氏が活躍しているイタリアのオペラに接し、イタリアでの生活を経験しておられる北條画伯にイタリアの美術を紹介していただくことを目的としてツアーを企画したい。
3. 留学生への支援奨励金（定款 4 条 6 項による）

オーストラリアとの美術系留学生の交換を行うため準備中である。
4. 会報発行（定款 4 条 6 項による）

会員との交流、情報交換を図るため、年間 4 回発行したい。
5. 講演会・音楽会（定款 4 条 6 項による）

日本画の「里帰り展」、「留学生支援」を行う資金を補うため、5 月 23 日（金）青盛のぼる氏によるチャリティーコンサートを行う。

出演者 青盛のぼる氏（ソプラノ）、飯 靖子（パイプオルガン）、西山昌子（ヴァイオリン） 未定（ピアノ）
6. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援（定款 4 条 6 項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されていることを認め、支援する。
7. 日本テレマン協会支援（定款 4 条 6 項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されていることを認め、東京における演奏活動に協力する。

青盛のぼるチャリティーコンサート報告

2008 年 5 月 23 日（金）に「青盛のぼる Charity Concert」を行いました。

出演は、青盛のぼる（ソプラノ）、飯 靖子（オルガン・ピアノ）、西山昌子（ヴァイオリン）、寺田美葵子（朗読）。

場所は赤坂・靈南坂教会。入場者数は250名。気持ちよく手伝ってくださるスタッフに支えられ、無事終了しました。

■感想

魂を揺さぶられて

中川史紀子(社)海外と文化を交流する会理事

今年も、オペラ歌手の青盛のぼるさんをお迎えして、チャリティー・コンサートを開催することができました。

コンサートのお手伝いをしながら、青盛さんの美しい歌声に接するチャンスに恵まれるということは、本当に幸せなことです。いつも思うことですが、青盛さんの華麗な歌声を聴いていると、その瞬間は、イタリア、ミラノの建築遺産、ドゥオモの前に立っているような錯覚に陥るのは、実に不思議なことです。

また、魂を揺さぶられるという表現もぴったりですが、現実を忘れて、うっとりとした気分させられます。

尚、今回は、飯さんのオルガン、西山さんのヴァイオリン、そして「千の風になって」の朗読を加えて変化もあり、とても好評だったようです。

青盛さんの4回目のコンサートも、幸せな空気が教会中に満ちあふれた会だったと思います。

教会で聴くバッハの感動

向後佐恭子(社)海外と文化を交流する会会友

このたびは素晴らしいコンサートにお誘い下さりましてありがとうございます。ヴァイオリンもソプラノもオルガンも堪能させていただきました。教会のなかで聴くバッハはやはりいいものでした。西山さんはお忙しくお過ごしと伺いましたが、あの演奏をおこなしになるには日頃の練習を決しておろそかにはしていっしょらないと拝察いたしました。また来年も聴かせていただきたいものでございます。

しっとりとしたヴァイオリンと朗読「千の風」

鹿島元子(社)海外と文化を交流する会会友

先日は素晴らしい音楽会にお誘い頂きありがとうございます。教会での音楽会！独特の雰囲気がありとても清々しい気持で感動させて頂き、これが音楽会の原点なのだと感じ入り大満足でした。千の風！以前聴かせていただいた歌の時も良かったのですが、ヴァイオリンと朗読との組合せもしっとりとても素敵でした。

心に響く音楽会でとてもとても温かい気持で帰途に着きました。ありがとうございました。

豊かで繊細な青盛さんの声に心震え

樽ヨシイ(社)海外と文化を交流する会会友

今までに4～5回、会主催のコンサートには伺っています。会場である教会の雰囲気がとても気に入っていますので、会員である下村とし子さんに、コンサートがある時は必ず知らせてほしいと頼んでいる程です。今回も4人で伺いましたが、皆が幸せな気持ちになって「よかった！本当によかった！」と言って帰ってきました。豊かで繊細で、こちらの心が震えるお声の青盛さんです。今でもお声が耳に聞こえてくるほど心底感動しました。ヴァイオリンとピアノも素敵で楽しませていただきました。詩の朗読も良かったです。準備して下さった方のご尽力に感謝しています。

青盛さんは文化交流の大使的役割

松本純子(社)海外と文化を交流する会会友

5月23日のコンサート、まさに至福の時を過ごさせていただきました。豊かな情感、歌の持つ内面性を見事に表現なさり、聴衆の心に訴えかけ、大きな感動を届けてくださいました。

3年前でしたか、初めて聞かせていただいた折に、そのお声の持つ力、響きの伸びやかさに驚かされましたが、より深みを加えられ、まさに熟成されたことに感動し、エネルギーをいただいて幸せな思いに満たされて会場を後にいたしました。

まさに日本を代表して欧米で文化交流の大使的役割を務められていることに嬉しく思いました。「海外と文化を交流する会」の長年にわたるご活躍に心からの敬意を申し上げます。

お知らせ & 報告

■公益法人の新制度移行について

3月14日外務省で行われた「公益法人の新制度移行に関する説明会」に大谷常務理事が出席しました。小泉改革の一端として公益法人の制度が変わります。海外と文化を交流する会が属する外務省関係の公益法人は現在200以上あります。これを減らすことが目的です。

そのために5年以内に公益社団法人になるか一般社団法人になるかを決め、手続きをしなければならなりません。

公益社団法人になると、寄付者が免税措置を受けられます。里帰り展が実現すると、多額の寄付を受けなければなりません。その場合認可を受けておくと有利であるというメリットはあります。しかし、

- ①理事会には理事の2/3が出席しなければ成立と認められない。
- ②同一親族が理事または幹事の1/3以上いてはならない。